

福祉サービス第三者評価結果報告書
藤沢市立湘南台保育園

平成 30 年 2 月 28 日

福祉サービス第三者評価機関
株式会社ケアシステムズ

事業所名 : 藤沢市立湘南台保育園

1 事業所基本事項

フリガナ	フジサワシリツショウナンダイホイクエン
事業所名 (正式名称を記載)	藤沢市立湘南台保育園
事業所住所 最寄駅	〒252-0804 神奈川藤沢市湘南台6-31-6 小田急線 湘南台駅下車
事業所電話番号	0466(43)3830
事業所FAX番号	0466(43)3809
事業所代表者名	役職名 園長 氏名 関 紀子
法人名及び 法人代表者名	法人名 藤沢市 法人代表者氏名 藤沢市長 鈴木 恒夫
URL	
e-mail	
問合せ対応時間	8:30~17:00

事業所の概要 1

開設年月日	昭和48年 5月 1日
定員数	120名
都市計画法上の用途地域	
建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建て
面積	敷地面積 (1318.60) m ² 延床面積 (682.84) m ²

事業所の概要 2 (職員の概要)

総職員数	常勤25名 非常勤3名 パート7名
うち、次の職種に該当する職員数	施設長 (1 名) 保育士 (23 名) 保健師・看護師 (3名) 栄養士 (2 名) その他(事務員等 0名 調理員 5名)

事業所の概要 3 (受入・利用可能サービスの概要)

受入年齢	生後 6ヶ月~小学校就学未満	
延長保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:
休日保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:
一時保育の実施	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ <input type="checkbox"/> 無	備考:

障害児保育の実施	有・無	備考：
病後児保育の実施	有・無	備考：

保育の方針

- 1) 子ども一人一人の健やかな心身の発達を保障し、豊かな心と丈夫な身体を育てる。
- 2) 子ども一人一人の心に寄り添い、思いや要求を受け止めながら、自己肯定感の持てる子どもに育てる。
- 3) 安全かつ安心できる環境を整え、発達に応じた多様な遊びや生活経験を通し生きる力を培う。
- 4) 保護者の意向を尊重し、子どもの成長の喜びを共有しながら、相互の信頼関係を基に連携を図る。
- 5) 地域の開かれた保育園として子育て支援の役割を担っていく。

1. 総合コメント

総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

施設概要：

地下鉄・相鉄線の乗り入れで、急速に変化している湘南台地区。賑やかな商店街を抜け国道 467 号線を挟んだ静かな住宅街の中にある保育園です。目の前にある園の庭のような下原公園をはじめ、大きな湘南台公園、サイクリングロード、田畑など周りにはまだまだ緑地があります。また、湘南台文化センターや総合市民図書館なども利用でき、子どもたちがいろいろな体験を通して豊かな感性と創造力、心身の成長発達を育むのに良い環境の中にあります。

優れている点：

「園内研修で人権について周知を高めている」

園内での人権研修で各自の研修前の藤沢市人権施策推進指針への感想と、園内研修後の職員の感想を臨時職員も含め全職員に行い子どもの人権に対する意識を高めている。

「栽培からクッキングと食育に繋げ自然との関わりを深めている」

用務員と一緒に野菜の栽培をすすめており植物の生長を知り、更にクッキング保育に繋げている。年長児と2歳児との交流の中でお礼の気持ちを形にし大収穫だったナスを感謝の気持ちで渡すなど、自然との出会いで豊かな感情や好奇心を育み表現力の基礎の形成を目指している。

「絵本や物語に親しみ想像する楽しさや言葉を豊かにしながら友だちと心を通わす保育を目指している」

自宅でも絵本に親しむ機会を持ってもらうために絵本貸出コーナーを設置したり「先生のおすすめの本」や「保護者からのおすすめ絵本」として絵本との思い出を示し、絵本への興味や関心を広げる機会を図っている。年長児は近くの図書館に行き「おはなし会」に参加したり、好きな本を借りて皆で同じ世界を共有する楽しさや心を通わせることができるように努めている。

「子どもたちの自由な表現活動を通して創造性を豊かにする機会を図っている」

運動会のポスターに使用するために全身自画像を描くことに取り組んだ。2人1組になってお互いのかたどりをする初めての作業に子どもたちは楽しみながら取り組み、その後は小さな自画像づくりにも発展した。1階階段下スペースには季節ごとの制作発表の場をもうけて、園全体で楽しんでいる。自然物を使った制作や歌、リズム遊びなど自由な表現活動を通して創造性を育むことを応援している。

独自に工夫している点：

落ち着いた環境づくりのために担当制保育で乳児は少人数で静かな落ち着いた空間をクラスにつくっている。アセスメントシートの活用やコーディネーターと連携をとり、情報を職員と共有して、園全体での共通理解を深めている。

アレルギー児の対応で、シミュレーションをして、配膳など間違いのないよう取り組んでいる。

改善すべき事項：

職員人材育成の管理方法を具体的に進める

職員の自己啓発「いいね」を進める。

園長が初年度ということで様子見になっているが、子ども第一に考え職員も協力し積極的にすすめることが期待される。

評価領域ごとの特記事項

1 人権への配慮

- ① 「人への愛情や信頼及び人権及び人権を大切に育てる」を保育の目標に掲げ「藤沢市保育課程」「保育園のしおり」「保育園規則」「藤沢市人権施策推進指針」「藤沢市児童育成計画」「にこやか推進手帳」等に子どもや保護者への人権への配慮を明示しており職員会議や職場研修、外部研修で職員に周知徹底を図ると共に保育の中で話し合う機会をもつ。藤沢市人権推進施策より資料を引用し、正職員に人権研修を行い、臨時職員にも別日程で同じ内容で実施、各職員の感想も集め身についていることがわかり、感想は経営層で共有している。「守ろう子供の人権」という毎月標語を考えて、随時、他事例などを共有したり、保護者からの意見など保育の中で話し合っている。一職員の問題とはせず、自分では気づかないことを職員が共有することが大切であり、意識できるようにしている。園独自の「保育を振り返ってみましょう」の中で人権についても自己チェックしている。
- ② 「にこやかクレド」の年間目標を担当職員が作成し、事務室に掲示して朝礼では日々の目標を唱え職員間のコミュニケーションの向上に努めている。FUJISAWA にこやかクレドサービス宣誓を全職員が携帯している。
- ③ 待遇では子どもや保護者の立場に立って笑顔で丁寧な対応を心がけている。また、園児の名前を呼び捨てにしないことを周知徹底している。公には「さん」で統一し、クラスでは入所時に家庭での呼び方を尋ねてそれを使用している。
- ④ 人権に関するeラーニングやクレドカード、自己評価チェックリストを定期的に行う事でサービスの向上を図っている。事務室に5台の利用可能なPCがある。主任がスケジュールリングして1日1時間までと決めて期限に間に合うように進めている。自己チェック方式で進行している。
- ⑤ 個人情報の保護に関しては藤沢市個人情報の保護に関する条例に記載している。人権目標、児童憲章を事務室に掲示し職員に周知を図っている。個人情報は鍵つきのファイリングロッカーに保管し個人情報に関わる配布資料は終了後シュレッダーをかけ廃棄するという管理を主任がルールに従って進めている。
- ⑥ 保護者との個人面談には時間の設定、場所の設定に留意してプライバシーが守られるようにしている。おたより帳は職員以外見られないよう管理して返す時は間違えないようにしている。「保育園規則」、「保育園のしおり」の中で個人情報の取り扱いについての記載があり保護者に入園時に配布、説明して了解を得ている。保護者との相談はプレイルームや、事務室に仕切りを作ってブラ

		<p>イバシーを守って実施している。荷物や、お便り帳などは間違いの無いようダブルチェック体制で取り組んでいる。</p> <p>⑦ 実習生やインターンシップへの個人情報の保護に関しては「実習生用保育園のしおり」や「保育体験活動に参加されるみなさんへ。」に明記してありオリエンテーションの際に周知を図っている。実習日誌の記入にあたっては子どもの名簿は提示せず名前も記入しないことも指導している。実習元から確認書をもらっている。</p> <p>⑧ 「全国保育士会倫理綱領」を掲示し、職員の意識づけツールとして、またそのように取り組んでいることを保護者にも周知することで職員の緊張感を保つことに繋げている。</p> <p>⑨ 外国籍の家庭も多いので、ふりがなをふり丁寧に対応している。役所からの書類は翻訳したものを取り寄せて対応している。面談時には言葉だけでなく写真や、現物を見せたりして齟齬の無いようにしている。</p> <p>⑩ 聴覚障害者協会のボランティアの方に手話の指導や絵本の手話での読み聞かせをしてもらう等年長の子も達に手話の言語性及び手話の魅力について知ってもらい、障がい者への理解の浸透を自然なかかわりの中で図っている。ダイバーシティ・多様性の理解につなげる取り組みとして、今後も続けていきたい。</p> <p>⑪ 虐待については連絡ノートや、送迎時の様子、子どもの行動などから兆候などを察知して、専門機関に相談するなど必要な対応に結びつけている</p>
2	<p>利用者の意思・可能性を尊重した自立生活支援</p>	<p>① 家庭との連絡情報交換の手段・方法については「藤沢市保育課程」「帳票マニュアル」の家庭との連携、家庭連絡表に記載に従って進めている。保護者にスケジュールをできるだけ早めに伝えることを目的に「保育園のしおり」で保育参観、クラス別懇談会、試食会のあることを知らせている。「にこにこだより」を発行し園の情報を家庭に知らせている。行事の1～2ヶ月前には再通知をしているがルール化はされていない。</p> <p>② 保育内容に関する家庭の希望や意向の把握方法は入園時に「保育に関する希望」を記入して貰うことにしている。送迎時に日頃の様子を伝えるなど、コミュニケーションを図っている。懇談会を年に2回、個人面談を実施している。保護者の希望や要望に応じ面談を行って意向、要望の把握に努めている。園としての方針や目標、各クラスの取り組みを知らせ家庭からの要望や質問も聞き信頼関係を深めている。ご意見箱は玄関に設置している。担任や園長に要望を保護者が伝えることが多く、必要に応じ場所を変えて話を聞き対応している。職員で共有し、対応・解決策を策定し、当事者につたえ、内容によっては園全体としての取り組みとしている。苦情については藤沢市保育課に報告、内容によっては保育課と一緒に対応する体制になっており、園長会でも共有されている。意見・要望等受付（報告）書に記入し、意見・要望→話し合い内容→対応内容を記述し園内で共有している。ファイルされており、過去の事例もストックされているので振り返りの有効なデータになっている。</p> <p>③ 食材や調理への関心と感謝の気持ちを持つことで食べることへの意欲を育てている。各クラスの保育士や調理担当、用務員等と連携し野菜の栽培をして収</p>

		<p>穫の喜びを感じ、その野菜を使用したクッキング保育やタマネギやトウモロコシの皮むき等様々な食材の臭いをかいだり触れ自分たちで調理をしたりする経験を通して食育へ繋ぎ食生活への関心を高めている。又、調理員や用務員と食事を一緒にし、会話を楽しんで食育に繋げている。</p> <p>④ 異年齢のふれあいを大切にしている。5歳児は金曜日には0歳児以外のクラスでシーツの取り外しを手伝ったり、自発的に園庭に出れば靴をはかせたり手を繋いで遊んだりと一緒に生活し遊びながら優しさや相手を思いやる心を育てている。</p> <p>⑤ 世代間交流として藤沢市の事業の一環で民生委員を通じて地域のお年寄りが、年7回幼児クラスに入って子どもと遊んで、一緒に食事をして生活に潤いを与えている。豊かな経験の中で主体的に人と関わり認められ自己肯定感が育まれている。</p> <p>⑥ 乳児保育においては少人数の担当制保育を実施し同じ保育士が保育することで一人一人の甘えや要求を受け止め情緒の安定を図り愛着関係をつくっている。落ち着いた環境の中で個々の発達・成長・興味に応じたあそびを展開して子どもの感性が豊かに育つように働きかけている。保育士自身が感性を磨き子どもの気づいた事や感じたことに一緒に共感していく事や子どもの心の声に気づく事が大切であると考え保育の振り返りで小グループでの話し合いなどケース検討をしている。</p> <p>⑦ トイレトレーニングは担当担任が個別に家庭と連携を図りながら無理なく一人一人の排泄のリズムを知り子どもの気持ちに添った声かけを行うことで排泄の自立への意欲を育みながら進めている。</p> <p>⑧ 献立を発行している。献立のサンプルケースを迎えの時見えるように玄関に設置している。「今月の保育」を掲示し、その月の各クラスの保育内容を知らせている。行事の時にはクラスに見どころや、取り組みに力を入れている点の掲示や、行事にむけた子どもの様子を掲示している。毎日の保育の様子はクラス毎のボードを活用し家庭連絡表（0～2歳）やおたより帳（3～5歳）ではその子どもの日々の様子を伝え合い保育にいかしている。朝夕の長時間保育の実態に合わせ、落ち着いた環境設定を工夫し保育室を分け子どもの状況をよく理解している保育士を配置して子どもが寂しいと感じないようにしている。また職員間で連絡、連携をとり降園まで安全で安心して過ごせるように配慮している。クラス別連絡ノートで登降園の確認、人数確認の徹底に努め送迎の際に保護者に必要なことはきちんと連絡ができるようにしている。</p> <p>⑨ 配慮・支援が必要な子どもには市の専門家がおり保育に関して相談、支援が受けられる体制が整っている。また共通理解が深まるように会議等で全職員に周知し、コーディネーターやアセスメントシートの活用をして保育をすすめ、全職員が対応できる体制をとっている。また、子どもの行動を尊重しながら、家庭とも寄り添い気持ちを大切に結びつけている。</p>
--	--	--

<p style="text-align: center;">3</p>	<p style="text-align: center;">サービスマネジメントシステムの確立</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 「意見・要望等解決の仕組みについて」を玄関に掲示し園における苦情・要望の解決責任者、受付担当者を決めている。また、その旨を入園のしおりなどを用いて、入園面接時保護者に説明し、意見箱を設置も周知している。「藤沢市立保育園における意見・要望等解決実施要領」にて園での解決が困難な場合には保護者に第三者委員がいる藤沢市市民オンブズマン制度や神奈川県保育会保育園利用者相談会会員である事を説明し、会員証の写しを掲示している。 ② 意見や要望の受付から解決までの記録は、意見要望等受付報告書に経緯や経過が詳しく記載され保護者への回答が適切になされている。 ③ 入園時には入園書類の中に保育に対する養護と教育への希望欄を設けて記載してもらっている。 ④ 子どもの命と安全を守れるよう、日頃から環境保全、毎日の始業点検、遊具の安全点検に力を入れている。保育室の湿度と温度は毎日測定し保育日誌（夏季プール実施日はプール日誌）に記録、保育室を適切な温度と湿度に保つように努めている。室温・換気については適切な温度のルールを定めて運用している。消毒などについても遊具の安全点検表や、遊具洗浄のチェックも行っている。感染症流行時にはおもちゃ、床、壁面の消毒を徹底している。ノロウイルス対策としては食器を調理場に戻す前に消毒するなど感染症の発生拡大を防いでいる。 ⑤ 危険物管理マニュアルを定めて消毒液や洗剤の薬品類在庫管理表、アルコール持ちだし使用表で管理運営し誤飲などの事故防止に努めている。衛生点検表で保育室、トイレの衛生管理をしている。衛生管理マニュアルに従い嘔吐処理や感染症の際の食器の浸け置き時の希釈方法を定めている。オムツ交換時の衛生や交換マットの消毒、調乳の際の衛生管理をしている。玩具や布団等室内の衛生、安全を確保している。また、遊具の安全点検実施要領に従って安全衛生点検表、ヒヤリハット点検表を用いて定期的に点検を実施している。但し、ヒヤリハットについては職員の意識付けとしてどんなことでも気になったら書ける簡潔なフォーマットも用意し進めたい。 ⑥ 感染症対策として保健師から毎週送られてくる神奈川県感染症発生情報を掲示および回覧で全職員に周知し保護者にも玄関掲示や保護者が必ず見ることになっているホワイトボードで注意を喚起している。クラス毎に感染症調べをして保育日誌に記入して感染症の蔓延の防止をはかっている。感染症が発生した場合はクラス別感染症状況ボードで知らせ、その病気の主な症状や潜伏期間等の掲示をしている。感染症情報システムに入力し保育課にも報告している。 ⑦ 園単独ではできない生活に密着した社会経験として、交通安全教室や、ゴミ体験学習会など環境教育を藤沢市に依頼して子どもの意識を高める取り組みを行なっている。防犯に関し防犯カメラを設置している。また、不審者の侵入した場合に備えて職員同士の合言葉を定め防犯訓練で周知徹底している。 ⑧ 消防署と連携し消火訓練、通報訓練を実施し計画的に毎月防災訓練を実施している。「災害対策の手引き」に従い災害時には園庭を第一避難場所に定め広域避難場所の湘南台公園への訓練も年に1回行っている。また、年に一度、警戒宣言を想定した防災訓練を実施して避難方法を身につけたり保護者への安全
--------------------------------------	---	---

		<p>な引き渡しの方法を確認する。訓練後の反省会で実情にあったマニュアルへの反映を進めている。また抜き打ち訓練も行い備えている。藤沢市は防災に力を入れているので、職員が避難所の係に当たっている。J アラート対応では避難集合場所を決めることが望まれる。</p> <p>⑨ 災害発生時に保護者への情報を「保育園災害メール」で送信できるようになっている。他園の利用などは共有している。</p>
<p>4</p>	<p>地域との交流・連携</p>	<p>① 保育士の専門性を活かして子育ての知識、保育の技術、子育てのヒントなどをわかりやすく発信し、保護者や市民の子育て力の向上を目指すことを心がけている。支援センターからの見学会や、すこやかメールで地域交流として体験保育の時に、保育士の専門性を活かして子育ての知識、保育の技術、離乳食の進め方、その内容など、家庭での日々の子育てと保育園で保育のあり方を共有してもらい、保護者や市民の子育て力の向上を目指す取り組みをしている。地域の子育て中の親子が支援センターを通じて来園する。保育園の役割や保育内容、調理員にも協力してもらい離乳食や献立の工夫について話をしてもらい質問に答えている。調理レシピも用意している。</p> <p>② 園庭の地域開放は年間を通じ月～金 10:00～16:00に行っている。地域の親子が遊びに来られるように体験保育・ふれあい遊び・うんどう遊び等年9回テーマを決めて地域交流を行っている。門の掲示板、子育てメール、ホームページで発信している他、公立保育園子育て連絡会を設置して「すこやかメール」を発信しており、子育て情報を載せたパンフレット（すこやかメール）を公共施設にて配布、設置している。</p> <p>③ 公民館まつりでは保育園の存在を紹介し、湘南台（子育て）メッセに参加し地域の方々に保育園紹介や、園庭開放や一時預かりなどのサービスの情報を提供している。</p> <p>④ 育児相談、保育園見学は随時実施している。また、保育実習生（3名）、看護学生（9名）、中学生の職業体験と保育部の授業を含め25名や高校生インターンシップ（6名）その他実習生なども受け入れ次世代の育成もしている（4月～11月）。</p> <p>⑤ 地域の独居の高齢者と民生委員が来園し（世代間交流）幼児と遊んだり一緒に給食を食べたりと交流している。</p> <p>⑥ 年長クラスは小学校生活の具体的イメージ形成を目的として小学校見学などを計画的に進め入学への準備につなげている。</p> <p>⑦ 地域の篤志家よる七夕の笹採り、お年寄りの方と飾りを作って笹に飾り、見学会で来園された地域の方に差し上げている。また、畑でのサツマイモ掘りも経験している。イモ掘りをしたサツマイモをクッキング保育でスイートポテトにしている。お礼に地域の方にスイートポテトとイモ掘りの絵を持っていくなど交流を深め感謝を伝えている。</p> <p>⑧ 総合市民図書館に年長組が行きボランティアによる「おはなし会」に参加している。また毎回絵本を一人1冊借りることができ楽しみにしている。</p> <p>⑨ 近隣の家庭的保育「さくら保育室」「チューリップ保育室」との連携を図り体重測定や消火訓練等呼びかけるなど2歳児との交流をしている。しゅやがはら</p>

		<p>保育園とは一緒に遊んで交流をしている。</p>
5	<p>運営上の透明性の確保と継続性</p>	<p>① 前年度の目標と反省、評価をふまえ毎年全職員で園目標を定めている。年齢毎の年間目標も定め毎月の月案や週案をたてている。懇談会では保護者に園目標、クラスの年間計画を説明している。環境・食育・保健の年間計画を事務室に掲示している。</p> <p>② 目標管理シート、保育課程に沿っての自己チェックをしている。毎月の会議で評価、反省し次の月に活かしている。</p> <p>③ 藤沢市のホームページに園の概要、保育目標、年間行事、園の生活状況などの園に関する情報が掲載されている。子育て支援サービスガイド・子育てガイド・保育園にあそびにきませんかなどのパンフレットを市民センターや地域子ども家、市役所に置いて情報の提供をしている。</p> <p>④ 第三者評価の結果の公表を通し、透明性を高め福祉サービスの更なる質の向上を目指したい。透明性は信頼関係につながるものであり、普段の保育を保護者に知ってもらい、掲示物やコミュニケーションを通して伝えていきたい。保護者と職員と一緒に日々の保育の中で感じられた子どもの成長を喜びあえる関係づくり、保護者との心のつながりができることが園としての透明性、つまり信頼性につながるものと考えている。</p>
6	<p>職員の資質向上促進</p>	<p>① 藤沢市保育課程には6項目の目標があり明文化されている。園の目標は「生き生きと遊ぶ子ども」で、その目標に沿って1. 健康保育 2. 心を育てる保育 3. 自然保育が設定されており「保育園のしおり」に明記している。それを通して職員が自分を振り返り、保育の計画につなげ保育力の向上につなげている。</p> <p>② 毎月の職員会議の中で保育の振り返り評価を行っている。職員各自の目標は人事評価の目標設定シート、目標管理シートで明確化し共有しながら達成できる様に取り組んでいる。また、ヒアリングをして職場内でのコミュニケーションの強化を図るとともに、風通しの良い職場づくりをしている。</p> <p>③ 市の職員研修概要に職制としての段階別研修及び保育に関わる研修が計画されている。職制別に求められる姿、必要とされる知識、技術が明文化されている。それに沿って「職場研修年間計画書兼結果報告書」で実施評価を行っている。園内での報告会や研修報告をしている。</p> <p>④ 研修報告の園内共有を行なっている。研修報告書はファイリングされ、職員が閲覧できるようになっている。内容によっては懇談会でも保護者に伝えたり、職員の能力向上と保護者への共有にもつなげている。</p> <p>⑤ 年初の懇談会で、各年齢の子供の発達を担当職員がカンパ化して説明して、子どもの成長の姿が保護者にも伝わり好評であった。職員の中から見たオススメの遊びスポットなどの情報も園から発信していけるよう取り組み職員の経験・知識を保護者に伝えることで更なる資質向上を図っていきたい。</p>

2. 自己評価の結果

大項目 1 保育環境の整備

評価項目に添って、自己評価を行った結果です

大項目 1 全体 （調査確認事項全 81 事項） を通してのサービスの達成状況	100%
---	-------------

大項目 1 の内容(概要)

1	人権の尊重	子どもや保護者に対する態度や言葉遣い
		出生や国籍、性差などによる差別の禁止
		子どもの虐待予防や早期発見のための地域の関係機関・団体との連携
2	プライバシー確保	プライバシー確保への配慮
		個人情報保護の体制整備
3	家庭と保育園との信頼関係の確立	家庭との連絡、情報交換の体制
		家庭の意向・希望の把握
4	苦情解決システム	苦情解決の体制整備
5	環境整備	温度や湿度等の管理
		洗剤等の危険物の管理
		おもちゃ、遊具等の管理
6	健康管理（感染症対策・救急救命を含む）	体調不良児、けがへの対応
		感染症への対応
		救急事態発生時の医療機関・家族等との連携
7	危機管理（防災・防犯）	火災や震災等の対応
		日常の防災・防犯体制の整備
8	地域の子育て支援	地域内の子育てニーズの把握と支援
9	自己評価と情報開示	自己点検・改善活動の実施
		地域への情報提供、情報開示
		見学や保育参観の機会の設定
10	職員研修	職員研修の実施
		実習生の受入れ、指導

大項目2 保育内容の充実

評価項目ごとに、事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>子どもと保育士とのかかわりにおいて、子どもの情緒の安定をはかることや、順調な発育・発達を促すためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 乳児クラスは担当制(少人数グループ)保育を取り入れ、特定の保育士との継続的で丁寧な関わりにより、安心して甘えられ、要求を出せることによって「人への基本的信頼感」を育てている。また、発達段階や心理的状況等を把握し、保育することで、子どもが主体的に見通しをもって、生活習慣を身につけられるようにしている。</p> <p>② 幼児クラスでは発達に合った遊びを取り入れ、一人一人の頑張りを認めたり、保育士に自分の気持ちを受けとめてもらうことで安心して自己発揮ができるようにしている。</p> <p>③ 家庭との連絡を密に取りながら子どもの様子を把握したり、子どもの成長を保護者と共有し、信頼関係を築くことを大切にしている。</p> <p>また、職員間で一人一人の子どもたちの様子を理解し、日々の活動につなげている。</p>	<p>① 市の取り組みでもある担当制により、乳児は安心して過ごすことができおり、成長の土台となる「心の安定」につながっている。環境設定では、手作りパーテーションを使ったコーナー設定により、好きな遊びに集中して取り組むことができる。片付けしやすい工夫例として、車のおもちゃを取り出ししたり片付けたりしやすいように、車の駐車場のよう1, 2, 3と場所を設定し楽しく出し入れできるようにしている。</p> <p>② 活動内容例として「走ること」を取り上げ、2歳はヒコーキ遊びやおにごっこをはじめ、3歳はバトンリレーの真似をして走る、4, 5歳はバトンをつなぐリレー競技ができるようになっていく。4, 5歳では目標をたて掲示しているが、失敗しても大丈夫、頑張りを認めていることを伝えている。</p> <p>③ 集団の中で子どもの姿で気になることがあれば、送迎時やノート、面談等を行い詳細を伝え、必要に応じて発達相談へつなげており、結果を共有し共通理解のもとで保育を行っている。職員は、丁寧に伝えることで保護者との信頼関係を築き安心してもらうことで子どもの心の安定にもつながっている。</p>
<p>子ども同士のかかわりにおいて、個の違いを認めあうことや他者と自分を大切にできる心をもてるようにするためにどのような</p>	<p>① 子ども同士の関わりを大切にし、見守ったり仲立ちしながら自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちに気付くような援助をしている。</p> <p>② 集団遊びを通して楽しさや喜び、時には悔しさなど、思いを共感できるようにしている。また、同じ目標に向かって友だちと協力していく中で、お互いを認め合</p>	<p>① 自分を大切にすること・相手の気持ちに気づくことを全クラスに伝えている。使って良い言葉といけない言葉を「ふわふわことば・とげとげことば」と表現し、寸劇を通して子どもと一緒に考えわかりやすく伝える工夫をしている。子ども同士が共通認識を持ち、自分たちで解決できるように支援している。</p> <p>② 運動会では年長の役割が多いため、自分のやり</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
取り組みをしていますか	<p>う気持ちや助け合う気持ちを育てている。</p> <p>③ 統合保育や異年齢の子どもと過ごす中で、刺激を受け模倣を楽しんだり、思いやりや理解の気持ちが持てるようにしている。</p>	<p>たいこと・がんばりたいことを考え担当したい役割を決めていった。片付け、なわとび、リレーそれぞれに得意分野で力を発揮できたことで、友達を認め助け合い、達成感を味わうことのできる活動となった。</p> <p>③ 保育園では多くの子どもたちが0歳児から共に過ごしているため、保育士のかかわり方や注意に耳を傾け個の違いに対して自然に学び受け入れることができている。重篤なアレルギー児に対しては、安全のためパーテーションを立て給食をとり食後は担任が室内清掃をしているが、子どもたちは受け止め理解することができている。</p>
子どもと社会とのかかわりにおいて、人に役立つことの喜びを感じたり、人と関わることの楽しさを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>① 当番活動やお手伝いを通して頑張りを褒められたり、認められることの喜び、満足感を積み重ねて自信へとつながるようにしている。又、そのような姿を異年齢児が見て憧れをもつ機会となることを大切にしている。</p> <p>② 用務員、調理員、保健師、栄養士、嘱託医など多くの人との関わりを持ち、豊かな体験を通して親しみや思いやり、感謝の気持ちが育まれるようにしている。</p> <p>③ 公共施設を利用したり、地域交流、世代間交流、ボランティアの方など、地域の方とのふれあいを持つことで、社会性を育てている。</p>	<p>① 年齢に応じた当番活動を実施している。3歳児はグループで行い、4歳児からは一人ひとりが担当し、5歳児になると園全体のお手伝いを行う。1歳児の週末のシーツはずし、歌や体操のお手本になったり遊び相手になったりの積み重ねが、運動会などの行事のリーダーを務める自信につながっていくように支援している。</p> <p>② 園庭での野菜作りは計画から準備まで用務と一緒に取り組み、収穫した野菜は自分たちで調理室に届けて調理のお願いをしたり他のクラスにも届けたりしている。</p> <p>③ 地域の文化センターでのイベントや図書館でのおはなし会には定期的に出かける機会があり、子どもたちが公共でのマナーについて学ぶ機会にもなっている。また開園以前から近隣で暮らす方も多く、七夕の笹をもらったりさつまいも掘りをさせてもらったり、園に対する理解と協力関係を築いている。</p>
生活や遊びなどを通して、言葉のやりとりを楽しむようにするためにどのような取り組みをしていますか	<p>① 乳児組では担当制（少人数グループ）保育を行う中で、一人一人を受容し、心地よい人間関係を築いている。その中で個々の思いを受け止めて伝えたり、気持ちを代弁しながら安心して表現できるようにしている。</p> <p>② 言葉への興味や言葉のやりとりが楽しめるような歌、手遊び、絵本、言葉遊び等</p>	<p>① 乳児では担当制・少人数グループ保育により、担当保育士に優しく受け入れてもらい語りかけられることで、笑顔が見られ少しずつ自分の気持ちを言葉や声、動作でも表現できるようになっている。</p> <p>② 手遊び、歌や絵の掲示をすることで、他の職員や保護者にも伝わるようにしている。幼児では生活発表や伝言ゲーム、しりとりなど言葉あそ</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>を取り入れ、言葉で表現する楽しさを知らせている。</p> <p>③ 安心できる優しい雰囲気大切にしながら、生活に必要な言葉や挨拶等その場にあった言葉掛けをし、身につくようにしている。</p>	<p>びを取り入れている。運動会では、子どもたちと一緒に考えテーマにするなど、言葉で表現する楽しさが味わえるようにしている。</p> <p>③ 毎日の登園時には、あいさつ、自分の名前、クラスと「元気です!」と一人ひとりが保育士に伝えている。幼児クラスでは給食時に当番が献立を読み上げている。声の大きさを、アリ・ネズミ・イヌ・ライオンと表現し掲示してわかりやすく伝えている。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、話すこと・聞くことが楽しめることや言葉の感覚が豊かになること、自分の伝えたいことが相手に伝わる喜びを味わうことができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 年齢や季節、子どもの興味に併せた絵本や紙芝居等、様々な物語に親しむ機会を多く持つようにしている。</p> <p>② 保育士や友だちと一緒に物語の世界を楽しむ経験を積み重ねる中で、ごっこ遊びに発展させ、なりきっていく中で、声の大きさや言葉選びを自分で表現することを楽しめるようにしている。</p> <p>③ 実体験の中で子どもと一緒にワクワクしたり、振り返る中で子ども自身が自分の体験を語る場を大切に、人に伝える楽しさに気づくようにしている。</p>	<p>① 自宅でも絵本に親しむ機会を持ってもらうために、絵本貸出コーナーを設置し「先生のおすすめ絵本」「保護者からのおすすめ絵本」として絵本の思い出とともに紹介したところ、子どもたちも「おすすめ絵本」を伝えたいとお気に入りの絵本を開いて見せるようになるなど広がりを見せている。</p> <p>② 絵本の読み聞かせに力を入れており、大型絵本も活用している。同じ本でイメージを共有しリズムや言葉などを遊びの世界でも使っている。</p> <p>③ 大きく育ったスイカを収穫してスイカ割りを経験しみんなで一緒に味わったり、さつまいも掘りでは大きさコンテストを行ったり、とうもろこしからのポップコーン作りなど様々な体験を通して子どもと一緒に驚き、一緒に楽しむことを大切に取り組んでいる。</p>
<p>生活や遊びなどを通して、楽しんで表現することができるようにすることや表現したい気持ちを育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 乳児組では、担当制(少人数グループ)保育をすすめ、安心した保育士との関係の中で手遊びや歌、楽器遊び、リズム遊びを楽しむ機会を多く持っている。</p> <p>② 保育士や友だちと一緒に歌ったり身体を動かしていく中で表現していくことの楽しさを知る。また、友だち同士や異年齢児交流の中で発表する機会を設け、更に自信や意欲につながるよう進めている。</p> <p>③ 年齢や季節、子どもの興味に併せた製作活動が出来るよう様々な素材を準備したり環境を整えていく中で表現することを楽しめるようにしている。</p>	<p>① リズム遊びでは、先生のピアノの音をきいて体の動きで表現している。すず・トライアングル・シンバル・カスタネット・ピアニカなど多くの楽器に触れ音を出してみることからはじめ、年齢に応じて楽器あそびが楽しめるように支援している。</p> <p>② 誕生会では5歳児クラスの子もたちが歌をうたって発表する機会を持っている。職員劇や人形劇などを行い特別な1日となることから、子どもたちは自分の誕生日を楽しみにしている。</p> <p>③ 運動会のポスターに使用するために全身自画像を描くことに取り組んだ。二人ひと組になってお互いの型どりをする初めての作業に子どもたちは楽しみながら取り組み、その後は小さな自</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
		画像作りにも発展した。1階階段下スペースには季節ごとの制作発表の場として飾り、子どもたちの自由な表現活動を応援している。
生活や遊びなどを通して、自発的に表現する意欲を育むことやみんなで一緒に表現する喜びを味わえるようにすること、創造的に表現することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの好きな遊びを取り入れて、それに必要なものを準備して遊びを盛り上げ、意欲を高めている。 ② 音楽に合わせて表現する遊びや、ごっこ遊びを通して、同じ目的に向かって一緒に行動したり、役になりきって友だちと掛け合いをするなど楽しさを味わえるようにしている。 ③ いろいろな素材や用具を使って製作したり、自由に絵を描いたり粘土など、物作りを楽しめる時間を多く持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① どの年齢の子どもたちも好きな遊びである「ままごと」では、手作りの冷蔵庫に食品を入れて楽しみ、安全への配慮から片付けでは個数を確認して数にも触れられるようにしている。保育士も仲間に入り、食器の並べ方や食べ方、食品の種類など楽しみながら覚えられるように取り組んでいる。 ② 保育士が覚えて指導している「ふじキュンたいそう」は、身近な言葉が多く取り入れられているため覚えやすく、2～5歳児クラスの子どもたちが公開保育で発表するなど楽しい取り組みとなっている。 ③ 絵・粘土・折り紙、写し絵など様々な素材を使用して表現活動を行うほか、夏の遊びとしてどろだんごづくり、朝顔の色水など季節ならではの楽しみ方も体験できるようにしている。
生活や遊びなどを通して、聞く・見るなど感覚の働きを豊かにすることや身体を動かす楽しさを味わうこと、身近なものに対する興味や関心を引き出すためにどのような取り組みをしていますか	<ul style="list-style-type: none"> ① 子どもの気づきや発見を共感しあえる環境作りを行い保育士自身が子どもと一緒に楽しんでいる。 ② 各年齢の発達段階に合わせた運動遊びを取り入れ、身体を動かす心地良さを体験している。 ③ 子どもが身近な生活環境に興味や関心が持てるような働きかけを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 月1回は乳児・幼児ともに誕生日会を行っており、10月には世代間交流と一緒に開催した。給食はお祝いメニューになり、職員による劇やみんなで歌をうたい特別な1日となるため、子どもたちは自分の誕生月を楽しみにしている。 ② 園庭には、滑り台・鉄棒・ジャングルジム・登り棒・ブランコなどたくさんの固定遊具があり、子どもたちは「お約束集会」で園庭遊びのルールを学んでいる。乳児と幼児では遊びのスピードなどが異なるため、安全に配慮して時間や曜日を分けて使用している。 ③ 保育室のごみ箱は分別できるようにわかりやすい絵の表示があり、トイレのお約束集会では使用について絵でわかりやすく伝えている。

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>生活や遊びなどを通して、身近な様々なものに対する探索意欲を満足させることや社会や自然の事象や、動植物への興味や関心をもてるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 乳児は担当制（少人数グループ）保育をすすめ探索活動への基盤となる心の成長を促し安心して過ごせる環境を整えている。</p> <p>② 園庭遊びや散歩、畑での活動、日々の生活を通して季節の変化や自然現象に気づいたり身近な社会現象に興味を持てるような働きかけをしている。</p> <p>③ 季節の草花、土、昆虫など自然に多く触れる事を大切に、好奇心や疑問、満足感等豊かな感性と創造性が育つようにしている。花や野菜を育てる経験を通じて用務員や調理員とも関わりながら生長を楽しみにしたり、収穫の喜びを共に感じられる様にしている。</p>	<p>① 乳児では園庭や散歩に出かけた際に地域の方に手を振ったり、人や物、自然物に興味を持ち触れてみようとするため安全に配慮しながら見守っている。</p> <p>② 玄関には季節の飾りつけをして、親子の会話のきっかけづくりをしている。園庭での虫探しやスズ虫の飼育、散歩途中や公園で見つけた草花の名前しらべ、秋の木の実ひろいなど保育の中に戸外活動を多く取り入れ季節の移り変わりを感じられるようにしている。</p> <p>③ 園庭で収穫した野菜は給食に取り入れてもらったり、キュウリを型どりして描いてみたり、製作にも取り入れている。近隣の方の畑で収穫したサツマイモは、クッキング保育でスイートポテトづくりをして、収穫のお礼の手紙と一緒に届けるなど、感謝の気持ちが持てるように支援している。</p>
<p>自分から食べようとする意欲を育んだり、排泄をしようとする意欲を育むためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 子どもたち一人一人の成長、発達に合わせて、家庭と連絡を密に取り合いながら食事の形態を考え援助を行っている。午前中の活動を十分に行う中で空腹感を感じ、食事の時間が楽しみになるようにしている。</p> <p>② クッキング保育や、用務員と共に野菜を育てる経験をし、自分たちで育てたものを調理し食べる事で食材への興味、関心を広げている。</p> <p>③ 一人一人の発達や意欲に合わせて、家庭と連絡を取り合い、排泄の自立に向けて進めている。</p> <p>また、オムツ交換やトイレに誘う際には個々の排泄リズムを把握し、子どもの気持ちを大切にしながら声かけをしたり、心地よさを共感するなど援助している。</p>	<p>① 保護者にむけて、離乳食の形状を写真でわかりやすく紹介しているほか、食器と食具の大きさは数種類取りそろえ、発達に合わせて個別に対応できるようにしている。手で食べることからはじめ、にぎる・つまむなどの動きが順番にできるように援助している。</p> <p>② 年間計画の中にクッキング保育を取り入れ、アレルギー児でも食べられる「いもち」づくり、カレーづくりを栄養士とともに行っている。調理のお手伝いカレンダーでは、とうもろこしの皮むき・グリンピースのさやとりなどの予定が記載されている。</p> <p>③ トイレ内では、子どもの取りやすい位置にペーパーホルダーを設置し、幼児トイレでは羞恥心への配慮からドアを設置するなど、使いやすい工夫をしている。失敗したときは、他の子どもにわからないように誘導するなど配慮している。</p>

項目	事業所による取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>身の回りのことを自分でしようとする意欲を育むことや基本的な生活習慣を身につけること、食事や休息の大切さを理解することができるようにするためにどのような取り組みをしていますか</p>	<p>① 年齢や発達、状況に応じた援助や取り組みを考え、「自分で出来た」という満足感や達成感が味わえるような経験や言葉かけをし、保育士も共感することで意欲が高まるように取り組んでいる。</p> <p>② 保護者と連携して育めるように、個々の育ちを伝え、励ましの言葉や援助を促している。</p> <p>③ 子どもたちが身の回りの事を行いやすいように、各年齢に応じてマークや場所、方法の表示をしたり、子どもたちの行動が迷うことなく行えるように、環境を整えている。</p> <p>④ 乳児は担当制(少人数グループ)保育をすることで、一人一人援助が必要な場面、気持ちを細かに把握している。</p> <p>⑤ 年間計画を立て、生活リズム、健康、保健、衛生などの項目で集会を行い、わかりやすく伝え身に付けられるようにしている。集会後はタイムリーに内容や写真等を掲示し、保護者にも情報を共有してもらえようようにしている。</p> <p>⑥ 休息と活動のバランスを考え、各クラス保育をしている。5歳児の午睡については、子どもの健康状態、個々の保育時間を考慮しつつ、小学校に向けてのリズムへと移行していくことを保護者に説明をしている。</p>	<p>① 寒さにまけない元気なからだづくりを目指し、風邪予防についても絵をつかってわかりやすく伝えている。外へ出るときには上着を着ることや、体があたたかくなったら自分で脱ぐなどの調節ができるように援助している。</p> <p>② 外へ行くときは何を着る?とクイズ形式の着せ替えカードを使いわかりやすく伝えている。</p> <p>③ 0歳児後半から4歳児までは、自分のマークがあり自分の持ち物や自分の場所を覚えられるように設定し、できたことはほめて次につながるように支援している。5歳児には、自分で気付いて行動できるように働きかけをしている。</p> <p>④ 子ども一人ひとりの特性を把握し、保護者の意向をくみ取りながら支援している。</p> <p>⑤ 集会では担当者を決め、季節に応じた内容で子どもたちにわかりやすいように絵本や寸劇などで楽しく伝えるようにしている。</p> <p>⑥ 乳児では、個々の生活リズムや体調等を考慮して、午前や夕方など午睡時間以外にも睡眠がとれるようにしている。5歳児では就学にむけて1月中旬から午睡時間を短縮し2月中旬をめやすに午睡時間をなくすように取り組んでいる。</p>

大項目3 保育園の特徴

評価項目ごとに事業所の取り組みを記載して下さい

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
<p>子どもの豊かな心と身体をはぐくむための特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 「いきいきとあそぶこども」を園目標とし、子ども一人一人が自己発揮できるように思いを受け止め、乳児クラスは担当性(少人数グループ)保育を行い、幼児クラスは乳児クラスからの積み重ねを大切に繋がりを持った保育を進めている。</p> <p>② 発達や状況を把握し、様々な経験や知識を育めるように、5領域を中心として年間・月案・週日案の計画を立て実践している。</p> <p>③ 0歳児クラスから5歳児クラスまでの異年齢交流を深め、刺激や意欲、あこがれや思いやりの気持ちを培っている</p> <p>④ 子どもが主体となって遊びが発展できるように、室内の環境を整えたり、遊びの中で育まれる探求心や発想、強調性を大切に、全職員が保育に取り組んでいる。</p> <p>⑤ 視野を広げ社会性を身につくように、小学校との交流、他保育園との交流、地域交流、世代間交流、園外保育、図書館のお話会等、様々な人との触れ合いや、活動を取り入れている。</p> <p>⑥ 季節を大切にし、絵本や歌、リズム遊びなど、全学年のクラスを通して保育に取り入れ、感性を豊かに育めるようにしている。</p>	<p>① 保護者の安心と信頼にむけて丁寧な保育を心掛けている。さまざまな価値観や変化にも対応した保護者支援をおこなっている。入園時の説明及び行事日程も丁寧に伝えている。養護だけでなく学べる場も提供しており、0歳から5歳までの日々の保育の中での遊び・運動・食育等の活動の積み重ねを大切にしている。</p> <p>② 自己肯定感を高めるため、人的環境を大切に考え、感性を育むことができるような計画を立案するように努めている。</p> <p>③ 園庭や畑など身近な自然に恵まれており、季節を感じることで五感を使い、学びとる力が育つように支援している。</p> <p>④ 生活の中に学ぶことを多く取り入れるため、職員も学びの機会をもち常に感性豊かでいられるように取り組んでいる。</p>
<p>保育環境に特別な配慮を必要とする子ども(長時間保育、障害児保育、乳児保育、外国籍園児)の保育に関しての特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 長時間保育の子どもたちが安定、安心して過ごせるように、朝夕の保育室や職員配置を考慮したり、遊びの環境を整えている。</p> <p>② 連絡事項が漏れることのないように、動向表やクラスノートを活用したり、職員間で伝言をきちんと行い保護者との引き渡しをスムーズに行えるようにしている。</p> <p>③ 配慮が必要な子どもへの共通理解が深まるように会議等で全職員に周知し、コーディネーターを中心に保育室の環境作りを徹底し、落ち着いた空間作りに取り組んでいる。アセスメントシートを活用し、担任</p>	<p>① 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるように、玩具の入れ替えなど延長時間での遊びを楽しむにできるように取り組んでいる。</p> <p>② 朝夕の合同時間では、担任以外の職員も保育に入るため、日中の子どもの様子を口頭とノートを活用して申し送りし把握に努め、子どもが安心して過ごせるように努めている。</p> <p>③ 配慮が必要な子どもや支援児については、職員会議で意見交換を行い共通認識のもと園全体で保育にあたれるように取り組んでいる。保育室ではパーテーションを使用したり別室で過ごしたり、子どもが落ち着いて過ごせるように状況</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>以外の職員も共通した支援ができるようにしている。</p> <p>④ 他機関施設(太陽の家・湘南だいち ぶれっじ)を併用して利用している支援児に対して、どちらも安定して過ごせるような受け入れ体制を整え、保護者や支援児が迷ったり、不安にならないように連携を取り対応している。</p> <p>⑤ 子どもの状況や発達に応じて乳児クラスの担当制(少人数グループ)保育は、より安定、安心して過ごせるように、年度途中でグループ替え等している。</p> <p>⑥ 外国籍の児に対しては、受け入れ、保護者とのコミュニケーションの取り方に十分配慮し、言葉の問題等がスムーズに行くように努めている。配布物や掲示物にルビをふっている。理解が難しい物は、写真や実物を見せる等で対応している。</p>	<p>に応じて個別に対応している。</p> <p>④ 保護者・他機関施設と連携がとれており、保育園から施設へ通うことができている事例がある。クラスの子どもたちも認識し、自然に受け入れることができている。</p> <p>⑤ 乳児クラスでは担当制・グループ保育を実施しており、子どもの状況等に応じてグループ替えを行い、落ち着いて過ごせるように配慮している。</p> <p>⑥ 外国籍の子どもの在籍があり、文化や習慣の違いに配慮しながら、保育園での生活についてわかりやすく伝えるように努めている。持ち物等に関して、文化や習慣の違いから理解が難しい場合は、貸し出しするなど可能な対応を行っている。行事では、保育士が隣に座り不安がないように配慮している。</p>
<p>健康管理に特別な配慮を必要とする子ども(アレルギー疾患をもつ園児、乳児保育、病後時保育など)の保育に関する特徴的な取り組み(アレルギー食対応、個別食、離乳食など)について説明してください</p>	<p>① 食物アレルギー児に関しては、医師の診断のもと、保護者と定期的な面談を実施し、毎月の献立表による成分確認を徹底して行い、アレルギーの原因となる物質の除去食を提供している。</p> <p>除去食については、毎日朝礼時に読み上げ、園全体で周知を図ると共に、食事してもらいに行く際も氏名、除去の有無を読み上げて繰り返し確認をしている。除去がなくても、常に個別盆で用意している。</p> <p>複数のアレルギーを持つなど重篤な子どもに対しては、床にこぼれた微量の物質に対しても反応があるということでワゴンを室内まで引き入れるなど出し入れにも慎重に配慮し、他児の足拭きも徹底して行っている。</p> <p>② 体調不良児は、早めに様子を連絡し様態の変化に十分注意し、事務室等で安静にし、観察を行っている。</p> <p>状況により、園医、保健師との連携のも</p>	<p>① 食物アレルギー児に対しての除去食の提供を行っている。園内で誤配膳や誤食が起こらないように、保護者と連携をとり毎月の献立表の確認と、前日のチェック、毎日朝礼での献立読み上げを行い、除去の有無にかかわらず氏名・食品名のある専用のトレイに蓋付の別食器を使用して提供している。重篤な症状の場合には、パーティションを使い別テーブルで給食をとり、食後は清掃後にパーティションを外す。午睡も別室で対応しており、園全体で子どもの安全にむけて取り組んでいる。</p> <p>② 発熱や怪我等で受診が必要な場合には、保護者に連絡して、お迎えまでの間は職員が付き添い様子観察を行っている。</p> <p>③ 離乳食は保護者と連携を取りながら進めており、保育園で初めて食べる食品がないように、必ず家庭で先に食べてもらうようお願いしており、アレルギー一覧表にチェックをもらうしくみとなっている</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>と、指示に基づいた対応を行っている。</p> <p>③ 離乳食については、子どもの離乳の状況に応じて家庭と共に進められるよう配慮している。アレルギーの事故を未然に防止するため、家庭で先に食べてもらってから園で食べるように連絡帳添付用のアレルギー一覧表にチェックをしてもらっている。</p>	
食に関する特徴的な取り組みについて説明してください	<p>① クラス担任と調理員が連携を持ちながら、年間の食育計画を基に、食育活動に取り組んでいる。食育の年間計画では、各年齢毎に目標を立て、4期に分けて、具体的な取り組みを設定している。調理員による食育集会をひらき、特に残食の多い物など、食への関心がもてるように働きかけている。</p> <p>② 用務員の協力の下、季節毎に野菜作りに取り組んでいる。また、地域の方の好意によりさつまいも掘りも経験している。</p> <p>③ クッキング保育については、アレルギー児に配慮し、白玉作りや芋餅など誰もが楽しめるよう新メニューに取り組んでいる。</p> <p>④ 毎日の献立を玄関付近のわかりやすい場所に示し、マグネットによる食材の紹介やサンプルケースの展示を行っているので、送迎時の親子の興味関心を高めている。また、季節にあった旬の食材の紹介や、行事に併せた食べ物の紹介など調理員による手作りの掲示を出している。</p>	<p>① 藤沢市保育課程の年間食育計画に基づき、年齢に応じたねらいを定めさまざまな食育活動を通して子どもが食に対する関心を持ち楽しく食事をとることができるように、職員・家庭・地域と連携をとりながら取り組んでいる。</p> <p>② 用務の協力があり子どもたちは園庭で季節ごとの野菜作りや近隣の畑でのさつまいもの収穫を行い、地域の方とも交流している。</p> <p>③ クッキング保育では、収穫したさつまいもでスイートポテトづくり・とうもろこしからのポップコーンづくり・野菜の皮むきなどの体験をしている。アレルギー児への配慮として芋もちづくりも行いみんなで楽しむことができています。</p> <p>④ 玄関には毎日の給食展示・食材表示・献立掲示がある。誕生日会・行事では特別な食事を提供し子どもの楽しみとなっている。</p>
家庭とのコミュニケーションに関する特徴的な取り組みについて説明してください	<p>① 「にこにこだより」を年6回程度発行し、育児に関する情報をタイムリーに提供している。また、各クラスの子どもの様子を担任の目線から伝え、到達した姿だけでなく、子どもの気持ちの動きなど途中の経過もじっくり知ってもらおうようにしている。</p> <p>② 朝夕の送迎時には、明るくコミュニケーションを取り合っている。家庭での生活</p>	<p>① 「にこにこだより」は年間計画に基づいて園長をはじめ各担当者が作成している。新年度・梅雨時の衛生・夏の保健・運動会など季節に応じた内容となっており、行事日程や保育の取り組み、保護者に必要な情報がわかりやすく伝えられている。ルビの表示もある。</p> <p>② 送迎時には保護者に声をかけ、子どもの健康状態や必要な情報を伝えるように努めており、家庭連絡帳やおたより帳も活用している。保護者</p>

項目	事業所による特徴的取り組みのアピール (事業所が記載した原文のまま公表します)	第三者評価での確認点
	<p>や健康状態などの情報交換など、子どもの情報を密に共有するため、家庭連絡帳、おたより帳の活用のほか、ホワイトボードで日々の保育の様子を保護者に知らせている。遊びや行事、エピソードなど写真も用いながらわかりやすく紹介している。また、月の保育等でクラスの様子を含めて計画していることなど、保育の進め方などを知らせている。</p> <p>③ 懇談会では、園やクラスの方針、ねらいなどを知らせるようにし、個人面談では家庭からの疑問や要望等個人的な内容に触れる中で、安心して預けてもらえるように努めている。</p> <p>④ 玄関先の掲示板を活用し、保健衛生に関する情報提供や園全体の連絡事項、市からの教養講座の紹介、勉強会などの情報も掲示している。</p>	<p>の就労時間等により、担任が会えない場合もあるため、当番の職員や他の職員でも対応できるように協力し合っている。各クラスの毎日の活動の様子はホワイトボードで掲示し、絵を使って見やすく伝えるようにし工夫している</p> <p>③ 懇談会前半は方針等の説明が中心となり、後半は保護者同士のコミュニケーションがとれるように時間を設定している。年1回の個人面談を実施しているが、保護者の希望に応じて年間を通していつでも対応している。</p>
<p>地域の子育て支援に関する特徴的な取り組みについて説明してください</p>	<p>① 地域交流（親子であそぼう）を年10回実施。内容としては、人形劇、乳児集会的なものの中に保育園ならではのパネルシアターや出し物を取り入れたり、体育的な身体を使っての遊び、楽器に触れて見ることなど取り入れた。また、0, 1歳児の体験保育、園庭開放を実施し、HPや携帯メールで案内を発信している。園前の掲示板にも毎月更新して、呼びかけている。</p> <p>② 園見学の問い合わせが多い中、丁寧な説明をしている。</p> <p>③ 一時預かりは、安全安心な環境の中で、市民が利用しやすいように対応している。</p> <p>④ 次世代育成のため、中学生の職業体験、高校生のインターンシップ、看護学生や保育学生の実習等の受け入れを行っている。特に近隣の中学校のクラブ活動（保育部）の生徒とは定期的な交流を持っている。</p>	<p>① 園庭開放・パネルシアター・手遊び・運動遊び・乳児集会・人形劇等の内容で年間10回の地域交流を行っている。保育園を地域の子育て中の親子に知ってもらうため、保育園ならではの取り組みを紹介できる機会として内容を充実させている。地域交流への参加は予約不要としているが、体験保育は予約が必要となっている。</p> <p>② 園見学の問い合わせは多くできる限り希望日に対応している。</p> <p>③ 一時預かりの希望者は増えており、市民が利用することが原則であるが、市境に在住の希望者に対しては、保育課へ問い合わせのうえ対応している。</p> <p>④ 近隣中学校の保育部（クラブ活動）の生徒は月1回の定期的な交流を行っており、子どもたちは訪問を楽しみにしている。中学生の職業体験、高校生のインターンシップ、看護学生や保育学生の受け入れも行っている。</p>

